

議長	副議長	事務局長	書記
			



政務活動費実績報告書

令和 8 年 2 月 24 日

富谷市議会議長 畑山 和晴 殿

会派名

代表者氏名

議員名

菊池 美穂



下記のとおり政務活動費を使用したので富谷市議会政務活動費運用指針の規定により、次のとおり報告します。

記

使 途	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究費 <input type="checkbox"/> 研修費 <input type="checkbox"/> 広聴費 <input type="checkbox"/> 要請・陳情活動
実施期間	令和 8 年 1 月 28 日(水)～令和 8 年 1 月 30 日(金)
実施場所	1 千葉県館山市役所 1 月 28 日 15:00～16:30 〒294-0045 千葉県館山市北条 1145-1 TEL 0470-22-3111 2 千葉県富里市役所 1 月 29 日 13:30～15:00 〒286-0292 千葉県富里市七栄 652-1 TEL 0476-93-1111
出席(参加)者名	菊池 美穂
実施(調査)成果	*別紙「政務調査報告書」のとおり
行 程	(計画と変更がある場合記載)

※各欄に記載できない場合、別紙添付により提出も可能。



政務活動報告書 まとめ

日時 令和8年1月28日(水) 15:00~16:30

調査先 千葉県館山市
館山市議会 議員 鈴木ひとみ 様
館山市総合政策部企画課 主査 橋本拓也 様
南房総市 総務部企画財政課 企画政策係長 押元秀行 様

氏名 菊池 美穂

調査項目 「定住自立圏構想」について

【館山市の概況】

館山市は房総半島南端に位置し、温暖な気候と豊かな海洋資源に恵まれた都市である。海岸線は約34キロメートルに及び、観光資源としてのポテンシャルが高い。また、東日本旅客鉄道の内房線が通り、域内に3駅を有するなど、交通基盤も整っている。

令和7年12月1日現在の人口は42,116人、世帯数は20,292世帯、面積は110.05平方キロメートルである。令和7年度一般会計当初予算額は219億200万円となっている。

【定住自立圏構想の概要】

館山市を中心市、南房総市を近隣市とする定住自立圏は、両市が連携し、圏域全体の生活機能の維持・向上を図ることを目的として形成されている。

現在は「館山市・南房総市定住自立圏共生ビジョン」に基づき、令和4年度から令和8年度までの5年間の計画期間として各種施策が展開されている。

【人口動態と課題】

圏域の最大の課題は、急速に進行する人口減少と少子高齢化である。特に若年層の流出が顕著であり、地域の将来を担う世代の減少が深刻な問題となっている。15歳未満人口は5年間で約1,500人減少し、出生数も減少傾向が続いているとの説明があった。

一方、転入者の中には60歳以上の割合が高く、温暖な気候や自然環境を背景とした移住ニーズが一定程度存在していることが示された。しかしながら、若年層や子育て世帯の定住促進にはなお課題が残る状況である。

【制度導入の効果】

定住自立圏の取り組みによる効果として、主に次の点が挙げられる。

・職員間の連携強化

両市職員による日常的な情報共有や協議が進み、自治体間の垣根を越えた政策検討が行われるようになった。これにより、多角的な視点を取り入れられ、施策の質的向上につながっている。

・公共交通の広域的検討

市境を越えた生活圏の実態を踏まえ、公共交通計画を共同で策定している点は特筆すべきである。住民利便性の向上と行政運営の効率化の両立を図る取り組みとして評価できる。

【合意形成上の課題】

一方で、両市の重点施策や財政事情の違いにより、事業の優先順位や方向性を調整する難しさも指摘された。過去には周辺自治体を含めた広域連携の協議が成立に至らなかった経緯もあり、合意形成の重要性が改めて浮き彫りとなっている。

持続的な圏域運営のためには、共生ビジョンを基軸とした共通認識の醸成と、丁寧な対話の積み重ねが不可欠であると考えられる。

【所感】

本調査を通じ、館山市と南房総市による定住自立圏の取り組みは、人口減少社会における現実的かつ戦略的な広域連携モデルであるとの印象を受けた。単独自治体では対応が困難な課題に対し、圏域として補完し合う仕組みは、今後の地方行政にとって重要な方向性を示している。

本視察で得た知見を踏まえ、当市における広域連携の在り方についても検討を深め、持続可能な地域運営に向けた政策提言へとつなげていきたい。

政務活動報告書 まとめ

日時 令和8年1月29日(木) 13:30~15:00

調査先 千葉県富里市

富里市長 五十嵐博文氏

富里市議会議長 鈴木英吉氏

富里市議会議員 野並慶光氏

商工観光課長、生涯学習課長 ほか関係職員

氏名 菊池 美穂

調査項目 末廣農場の活用と運営について

【富里市の概要】

富里市は千葉県北部中央、北総台地のほぼ中央に位置し、千葉市から約25km、東京都心から50~60km圏内、成田空港から西へ約4kmの場所にある。農業が基幹産業であり、特にスイカの生産量は全国上位を誇る。市内には鉄道路線がなく、公共交通は主にバスに依存している点が特徴である。

- ・人口 49,868人(令和7年12月末)
- ・世帯数 25,817世帯
- ・面積 53.88km²
- ・令和7年度一般会計当初予算 約184億5,500万円

【調査内容】

(1) 末廣農場の歴史的背景

末廣農場は、三菱財閥第3代社長であった岩崎久彌により、大正元年(1912年)11月1日に開設された。経営理念は「日本の畜産界の改良進歩を図るための模範的実験農場」であり、当時としては先進的な農業機械や設備を導入し、科学的・実証的な農法を実践したことに大きな特色がある。

久彌氏は三菱社長退任後、農場経営に注力し、日本の農業・畜産業の発展に寄与したとされる。末廣農場は近代日本農業の発展を支えた拠点の一つと位置付けられている。

(2) 旧岩崎家末廣別邸の価値

農場内に建てられた旧岩崎家末廣別邸は、昭和初期に建築された木造平屋建てで、主屋・東屋・石蔵の三棟が国登録有形文化財に登録されている。

その価値は主に次の三点に整理できる。

第一に庭園の価値である。既存の植林を活かしつつ、山野草や洋風要素を取り入れた構成となっており、近代日本庭園として高い評価を受けている。

第二に建築的価値である。耐震構造や耐火建材の採用、冷水・温水双方の水道設備など、当時としては先進的な技術が取り入れられている。

第三に歴史的価値である。戦後の財閥解体や農地解放により農場の大部分は失われたが、別邸は往時の姿を伝える唯一の中核施設として重要な意味を持つ。

(3) 公園整備と観光拠点化

富里市は、これらの歴史的価値を継承するため、土地・建物の寄附を受け、歴史公園「旧岩崎久彌末廣農場別邸公園」として整備を進めている。整備は令和12年度末を目標として段階的に実施されており、文化財保護と市民利用、観光振興の両立を図っている。

令和4年6月には、別邸に隣接する観光・交流拠点施設「末廣農場」が開設された。さらに令和7年4月26日からは主屋の一般公開が始まり、歴史資産と観光機能を一体的に活用する体制が整っている。

施設コンセプトは「富里に来たら最初に訪れる、富里の農の歴史と今を味わえる拠点」であり、観光案内、歴史ガイドンス、飲食・物販、イベント広場などを備える複合施設として整備されている。訪問時には地域住民による健康マージャンが開催されており、市民交流の場としても活用されている様子が確認できた。

(4) 管理運営体制

管理運営には指定管理者制度が導入され、株式会社グッドスタッフが担っている。指定期間は令和4年4月1日から令和9年3月31日までの5年間で、令和4年度から7年度までの委託料総額は約3,900万円である。民間事業者のノウハウを活用しながら、市の方針に沿った運営が行われている点が特徴である。

また、指定管理者と市内養豚事業者との連携により開発された特産品「末廣農場ハム」は、県内コンテストで高い評価を受けており、歴史ブランドと地域資源を組み合わせた商品展開が成果を上げている。

【所感】

富里市における末廣農場の活用は、歴史的資産の保存にとどまらず、観光振興、地域交流、産業振興を一体的に進める先進的な事例である。

文化財としての価値を丁寧に継承しながら、民間活力を活用した運営や特産品開発に取り組む姿勢は、今後の地域資源活用のモデルケースとなり得るものである。

本市においても、歴史資産を核とした観光・交流拠点の形成に向け、本事例を参考に具体的な検討を進めることが有益であると考えられる。